

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成27年 7月 7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773500406		
法人名	有限会社夢野家		
事業所名	グループホーム夢野家		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府南河内郡千早赤阪村水分593-1		
自己評価作成日	平成27年5月20日	評価結果市町村受理日	平成27年7月20日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kosei.go.jp/ai/27/naikudoAction.html#tab=014_022_kancho&process=2773500406-00&st=2773500406-00
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成27年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・重度になってもできるだけ布パンツを利用していただき、トイレで排泄できる支援を心がけています。また、入浴は二人介助で行い、ゆっくり湯船に入らせていただいています。

・外出や外食の機会を多く持つようにしています。利用者様も楽しみにされており、気分転換になったり、夜の良眠につながっています。

・昔慣らした手作業を活かしていただけるよう、保存食(味噌、切干大根、梅干、ラッキョウなど)作りを一緒にしています。また、畑の作物の整理や黒豆、あずきの選別などを手伝ってもらい、自分が関わった作物を口にする喜びを味わっていただいています。

・畳や襖のある昔ながらの民家を改修したホームのため、座り込んだり、寝転んだり、這って移動したりする方には、「靴を脱いだ暮らし」の良さを発揮していただけてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム夢野家は、山間の自然豊かな環境にある。代表者が生まれ育ったという築後50年以上の古民家を改築した事業所であり、自宅さながらのゆったりとした時間の流れを感じられるグループホームである。事業所には6名(1ユニット)の利用者が入居している。職員は女性のみで、勤務年数10年超の職員が多く、職員の定着率が高いのもこの事業所の特長である。

代表者と地域の結びつきが強く、日頃の散歩や近隣住民の来所、地域行事など、近隣住民とのつながりを大切にしたい運営に心がけており、代表者の思いが詰まった事業所運営となっている。事業所では、日頃の散歩や買い物以外にも、コンサートや映画鑑賞、花見、外食など、年間を通じて多くの外出の機会を持つことを心がけ、利用者の外出支援に努めている。

また、事業所に隣接した大きな自家農園では、四季折々の旬の野菜を栽培しており、日頃の世話や収穫、食事の準備作業を利用者と一緒に行うほか、干し柿や梅干し、切干大根づくりなどを利用者の能力に応じながらの協働作業を行ない、食の楽しみを味わえる支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が「そのままのあなたでいい」「老いる自由を楽しみましょう」のホーム理念を理解し、利用者には尊敬の念を持って関わっています。笑顔の絶えない地域に愛されるホーム作りを実践しています。	事業所理念は事務所内に掲示し、職員に周知するとともに、職員採用時の研修時と年1、2回はミーティング時に理念の確認の場を設けている。また、事業所理念の実践を目指して、「火の用心、言葉遣い、利用者優先、言葉かけ、私語厳禁」に関して「職員心得」を作り、それらを毎日引き継ぎ時に全員が唱和し、老いるということを受けとめながら一人ひとりの利用者の人格やその人らしさを尊重した支援を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村内の利用者が2名おられ、近所の方の訪問が頻繁で、外食行事にお誘いすることもあります。こちらから近所の方を訪問したり、近隣の農家の方から米や野菜を分けてもらったりしています。また、地域の施設や食事処を利用する機会を多くしています。	自治会には加入していないが、楠公の餅まきなどの自治会行事に利用者とともに参加している。日常的には、散歩や敷地に隣接した自家農園での農作物の世話を通じて顔馴染みとなった近隣の農家の人たちとの交流。また、公民館で地元の人たちと民謡を楽しんだり、知り合いの事業所訪問を受け入れるなど、日頃から地域とのつきあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には積極的に出向き、地元の方との対話を楽しむようにしています。その輪が広がって、急遽その方の「隣り組」会になったこともありました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況やサービスの報告、評価への取り組みなどを話し合っています。利用者にも参加していただき、生の声を聞かせていただく機会にもなり、サービス向上に活かしています。	運営推進会議は4ヶ月ごとに開催している。地域の民生委員2名、村の担当職員1名と利用者が参加している。会議では主に事業所の活動状況、利用者の暮らしぶりやサービス内容の報告をしている。災害時の地域の協力等、参加した民生委員から地域に伝えてもらうこともある。	運営推進会議は、年間6回以上の開催が好ましく、それに向けての議題や参加メンバーの調整を行ない、少なくとも年間開催回数の増加への取り組みを期待したい。

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議には村職員が参加しています。日頃から様々なことで相談しており、よき理解者として多数のアドバイスをいただき、サービスの質の向上に繋がっています。</p>	<p>村の担当者とは運営推進会議への参加の他、日頃から、空き情報、入居報告や事故報告などを伝えることにより、協力関係の構築に努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての勉強会を年一回行っています。全ての職員が身体拘束を行わないケアを実践しています。日中は交通量の多い国道沿いの門扉以外は全て開錠しています。</p>	<p>身体拘束に関する研修は、年に1回、ミーティング時に併せて実施している。職員は身体拘束について理解に努めており、利用者の見守りと声かけに配慮した支援に心掛けている。管理者は日々のケアの中で、必要に応じて職員に声をかけ、身体拘束のないケアを実践している。なお、日中は国道に面した門扉以外、玄関等の施錠はしていない。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束の勉強会の際、高齢者虐待防止についても勉強しています。現在、訴えの強い利用者に対して適切でないケアを行っている傾向がみられ、職員間で不適切ケアや虐待に関して学ぶ機会の必要性を感じています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、成年後見制度を利用されている利用者がおられます。権利擁護の関する研修会に管理者や職員が参加して理解を深めています。関係者との関係も密にしており、制度の活用を支援しています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書をもとに、サービス内容をわかりやすく説明しています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族と信頼関係を結ぶように努め、意見を出しやすい雰囲気作りを心掛けています。家族からは大小様々な意見が寄せられており、代表者、管理者、職員で検討し、ホーム運営に反映させています。</p>	<p>家族とは事業所行事への参加や面会を促すなどしながら、信頼関係の構築に努めており、概ね月に1回は、家族と個々に話しをする機会を設けている。家族からは1泊旅行や飲酒など、忌憚のない意見や要望が寄せられ、そうした情報は職員間で共有、検討し、運営に反映している。</p>	

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	運営者や管理者は職員と日常的に顔を合わせており、普段から意見や提案を聞く機会が多くあります。職員に相談を持ち掛けたり、意見を求めることで、何でも言い合える関係を築いています。	代表者や管理者は、日頃から話し易い関係づくりに努めており、職員が意見等を言いやすい環境づくりに取り組んでいる。設備面や利用者の役割分担など、職員からの発案で改善したケースも多い。職員の定着率も高く、勤務年数の長い職員が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの職員の個性や特技を理解し、やりがいを持って働けるよう努めています。子育て中や家族に介護が必要な職員も働きやすい職場であるよう、日々取り組んでいます。離職率は低く、全員が3年以上勤務者です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修を4名の職員が受講しています。それぞれの職員に適した外部研修の機会を作ったり、定期的に社内勉強会を行い、スキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとは合同での行事を多く取り入れ、職員同士の交流を促し、サービスの振り返りと質の向上に活かしています。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時は日中の職員を増員して対応しています。利用者の不安を少しでも軽減できるよう会話を重ねて笑顔を引き出し、信頼関係を築くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までの経緯を家族から伺い、家族の罪悪感が最小限となるよう、意向や希望を伺っています。また、入居当初は連絡を密にとることで、共に利用者を支える関係づくりに努めています。		

17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期相談時に当ホームが満室で利用できないとき、もしくは、当ホームの利用に該当しないと判断したときは、必要なサービスや相談先を紹介しています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で利用者の持っている「できる力」を引き出し、自立を促すように努めています。できたときは共に喜びを分かち合っています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の変調時には家族に報告して状況を共有するようにしています。家族の訪問は頻繁で、利用者の生活歴を聞いたり、現在の様子を伝えたり、コミュニケーションを持つように努めています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の家族や友人の来訪時には、自宅のように居心地よく過ごせるように努めています。電話での会話が楽しみな方もいます。年賀状などで家族や友人と交信できるよう支援しています。</p>	<p>利用者の知り合いが事業所を訪ねてきたり、自宅近くまで利用者に行くこともある。馴染みの場や人を入居後に育んできた利用者が多く、散歩や地域の行事への参加で、地域の場や人との交流を図ったり、外食時に入居後行きつけとなった店を利用するなどしながら、馴染みの関係継続の支援に努めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者は日中のほとんどを居間などの共用スペースで過ごし、職員や利用者同士との関わりをもたれています。出来る人ができない人にそっと手を差し伸べる暖かな関わりが多く見られ、職員は感謝の声掛けを心がけています。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>必要に応じてサービス終了後も関係を持つようにしており、看取り後、数年経った今も交流が続いている家族の方もいます。なかでも、姑様を看取らせていただいた方は実父の入所を強く希望され、法人内のグループホームを利用して下さっています。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度の方など意思表示の弱い方はちょっとした仕草や表情を読み取り、思いを汲み取るようにしています。特に入浴と排泄の支援については一人ひとり声掛けし、気持ちよく過ごせるように心がけています。	利用者一人ひとりの思いや希望は、日頃のケアを通じて聴き取っている。聴き取りが困難な場合でも、仕草や表情から読み取るように努めている。聴き取った情報は職員間で共有し、食事の準備作業や野菜の収穫作業等で、利用者の役割分担に活かすなど、利用者の意向に沿った対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用時に家族やケアマネから生活歴や生活環境について聞き、これまでの暮らしを把握しています。入居後も利用者や家族との会話から把握できることは多く、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時、ケアプランの見直し、著しく変化した際には利用者の過ごし方、心身状態、有する力の把握に努めアセスメントしています。センター方式の一部を使用しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い、ケース会議で出された職員の気づきや主治医の助言を反映して目標を設定しています。介護計画は職員間で共有し、生活記録を元にモニタリングを行い、6か月～12か月で見直しを行っています。	日頃の面会等を通じて家族からの要望等を聴き取り、介護計画に反映させている。モニタリングは月に1回実施している。通常は短期（3ヶ月）と長期（1年）の目標期間の経過ごとに評価を行い介護計画を見直している。また体調等の変化があればその都度見直しているが、家族等関係者が一堂に会しての担当者会議は行なっていない。職員は介護計画書に閲覧の確認印を押し、情報の共有に努めており、介護計画に沿った支援を心掛けている。	介護計画の見直し時においては、利用者、家族他、必要関係者の話し合いの場を設定し、多様な意見やアイデアを反映した介護計画の作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル、食事量、水分量、一日の様子、職員や家族の気づきなどを個別に記録し、職員間の情報共有や介護計画の見直しに活かしています。		

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院の付き添い、役所の手続きの代行、個人的な買い物など、一人ひとりが必要とされている支援を行っています。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>散歩では地元のお地藏さん巡りをしており、近所の方とは顔見知りの関係です。畑にベンチを設けてくださった方もいます。地域の施設や食事処を多く利用し、顔見知りの関係を広げ、地域資源を開拓しています。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関へは定期的な受診を職員が支援しています。信頼できる主治医で、利用者や家族も安心されています。他の医療機関への受診も必要があれば支援しています。</p>	<p>病院からの入居の利用者が多く、入居までの馴染みのかかりつけ医はいない。協力医療機関や村立診療所に受診している。受診には職員が同行支援している。受診結果は体調管理記録や引き継ぎ書に記録し、職員に周知している。家族には支払での来訪時に伝えている。変化があった場合は電話で連絡している。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>計画作成者が看護師であるため、利用者の健康状態を継続的に把握しています。また、介護職員への指示、助言につなげています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は何度も面会に行き、医療機関とも話し合いを重ね、家族が希望された際には早期に退院できるよう努めています。</p>		
33	<p>12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に家族の終末期に対する意向を伺い、実際に直面した時には再度、意向を確認します。食事摂取低下や急変時には入院するか否かを十分に検討していただき、家族の要望に沿えるよう、できる限りの協力をさせていただいています。</p>	<p>入居時に重要事項説明書に記載している「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って説明している。状態に変化があった時は、医師の説明等を伝え、事業所でできることを説明し、その都度意向を確認している。</p>	

34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時に備えて定期的に勉強会を開いて職員全員が応急手当や初期対応ができるよう訓練し、実践力を身に付けています。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年一回、消防署立ち会いの避難訓練を実施し、アドバイスを受けています。日頃から安全対策を心がけ、利用者の避難方法を確認しあっています。また、夜勤帯にはなるべく火を使わないよう申し合わせています。</p>	<p>消防署立ち会いのもと、シーツを活用した避難方法の指導を受ける等、実践的な夜間想定訓練を年一回行っている。外出時などを活用して自主的な避難訓練も行っている。地域とは民生委員を通じて協力体制の呼びかけを行なっている。また、備蓄として一年分の米・水・クッキー・缶詰・芋等を準備している。職員は引き継ぎ時コンセントや電源の確認等火災を未然に防ぐための確認事項を唱和し実践している。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシーの確保が一番大切にしたい部分です。排泄や食事の際の失敗にも、さりげないフォローを心掛けています。最近、職員が慣れ合い気味で、自身の声掛けや対応を振り返るよう促しています。</p>	<p>プライバシー保護や虐待に関する研修を年1回行っている。着替えは居室で行い、排泄等の介助時は、穏やかに耳元で話しかけ他の人に分からないように配慮している。また、管理者は、どんな時も利用者の尊厳を損なわない言葉遣いで接することができるよう職員を指導している。個人記録等の書類は鍵の掛かる書庫に保管している。</p>	
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>その日に着る衣類、飲み物、過ごし方など、日常的に自己決定の機会を作るようにしています。自己決定が難しい方には二者択一や、実際にものを見てもらうなど、選択しやすい方法を提供しています。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、入浴、起床、就寝など、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っています。希望を訴えることができない方にはその方本位となるよう努めています。</p>		

39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>訪問理美容によるカットを二カ月に一度利用しています。毎日、整髪や洗面、顔そりの支援を行い、身だしなみを整え、おしゃれに過ごされています。</p>		
40	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>隣接の畑で採れた野菜中心の料理を職員が三食調理しています。下ごしらえや後片付けを手伝ってもらい、保存食も一緒に作ります。職員は同じものを食べながら介助を行います。テレビで見たばかりの物を食事に出したり、誕生日には好物の料理、手作りケーキでお祝いします。</p>	<p>献立は、利用者の希望にも沿いながら、事業所隣接の畑で作った旬の食材を中心に作成している。足りないものは生活協同組合等から購入している。利用者は野菜の掃除、豆むき、皮むきなど出来ることを行っている。利用者と職員は揃って一緒に食事をしている。利用者は干し柿、らっきょう、切干大根等保存食を職員と一緒に作ったり、適量の飲酒（ビールや梅酒）を楽しむこともできる。月2回ほど外食の機会を持つなど食事形態の変化も楽しめるように支援している。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分量と食事量は毎日記録しています。食欲が増すような盛り付けにするなど、見た目も大切にしています。咀嚼、嚥下状況に応じた食事を提供し、食が進まない方には数回に分けるなど臨機応変に対応しています。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に口腔ケアを支援しています。特に、義歯の方は口臭が生じないように支援しています。</p>		
43	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄は記録することでパターンを把握し、重度の方もなるべく布パンツを用い、トイレでの排泄を支援しています。夜間にはポータブルトイレを利用することで安心され、良眠につながった方もいます。</p>	<p>排泄状況を記録している。自立に向けた支援を目指していて、利用者の様子を観察し、随時声かけをしてトイレ誘導を心掛けている。入居時オムツだった利用者も自立に向けた支援の結果改善し、現在ほぼ全員布パンツを使用し、トイレで排泄できている。夜間や外出時はパットを使用したり、ポータブルトイレを使用する利用者もいる。</p>	

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>旬の自家製野菜中心の料理のため、酷い便秘の方でも緩和傾向になられます。腹部マッサージを行ったり、便秘解消作用のある飲食物を勧めたりと、普段から便秘の解消に努めています。</p>			
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>毎日、午後を入浴時間としています、利用者は概ね2~3日に1度入浴しています。拒否のある方でも、無理に勧めず本人のタイミングに合わせてるように努め、気持ちのよい入浴を支援しています。菖蒲やゆず風呂などで季節感を出したり、入浴剤でリラックスできるよう工夫しています。</p>	<p>利用者は2、3日に一度のペースで、午後3時~5時の時間帯で入浴している。浴槽湯は足し湯で対応し、利用者ごとの湯の入れ替えはしていない。職員は利用者一人ひとりにあつた湯温調整を心掛けており、現在入浴を拒む利用者はいない。冬はほぼ毎日入浴剤を使用している。菖蒲湯や柚子湯など、季節感を楽しむ工夫もしている。職員は全員女性のため、利用者によっては二人介助で入浴の支援をしている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼夜逆転にならない程度に日中も眠い時には眠ってもらいます。なるべく夜間ぐっすり眠れるように、外出の機会を多く持つようにしています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員全員が一人ひとりの薬の用法、副作用について、いつでも確認できるようファイルしています。投薬変更時には引継書にて用法用量の情報を共有しています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>廊下のモップがけ、洗濯畳み、食器拭き、庭の草引きなど得意分野を活かした役割を担っていただいています。読書、三味線などの趣味の時間を過ごす、たまの晩酌を楽しむなど、それぞれの気分転換を支援しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>外出の機会を多く持つようにしています。四季折々の草花、コンサート、映画、喫茶店でのモーニングなど。外食は月一回以上は行くようにしています。また、年2回、村の作業所の若者たちとの交流は利用者の楽しみとなっています。</p>	<p>近くの地蔵へ散歩したり、自家農園や近隣の畑などに出かけている。地域の映画館や文化施設の見学の後外食を楽しむことも多い。くすのきホールで開催されるコンサートや地域の行事にも参加している。村内の作業所との交流会ではサンドイッチ等の軽食やゲーム、ダンス、演奏を楽しんでいる。</p>	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個別にお小遣い程度のお金をホームで管理しています。必要なときには一緒に買い物に出かけて、靴や衣類、欲しい商品を選んでもらい、ショッピングを楽しむ支援を行っています。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や友人に電話をかけたたり、手紙を書いたりされています。年賀状は大切な方とのつながりと考え、重度の方にも一文字でも書いて頂けるよう支援しています。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>民家改修型のため、自宅にいるかのような安心感があり、居間には調理の音や料理の匂いがして生活感もあります。縁側は暖かい日差しが差し込み、庭を眺めて過ごす格好の場所です。居室には畳があり、座り込んだり、寝転んだり、自由に過ごすことができます。トイレ、洗面所、廊下は毎日拭き掃除を行い清潔感を保っています。</p>	<p>利用者が居間で職員と一緒に、ゆったりとしたひと時を過ごせるよう、ティータイムを設けている。居間、談話室、廊下、庭に椅子やテーブルを置き、綺麗に手入れされた庭や棚田の風景等を眺めながら、利用者が気に入った場所で思い思いに過ごせるよう配慮している。また、季節感を楽しめるよう、秋には庭でサンマを焼いたり、冬には縁側で観梅会を開催するなど、古民家の長をを活かしながら、日々の暮らしを楽しめるよう工夫している。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間は居間の他にも、フロアや廊下に椅子を置き、自由に過ごすことができます。一人で日光浴をする方や、仲の良い利用者同士が楽しくおしゃべりしている姿が見られます。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのある書籍や人形、家族の写真を飾るなど、自由に居室を使用されています。利用者が一番リラックスできる空間であるよう工夫しています。また、訪問された家族とゆったり寛いでいただけるよう空間を広く取るようにしています。</p>	<p>居室は和室で、ベッド・防災カーテン・整理ダンス・時計等は事業所で設置している。テレビも希望があれば提供している。利用者は馴染みの本棚や本、整理ダンス、椅子等好みものを持ち込んでいる。家族の写真や折り紙の作品などを飾り、利用者各々が居心地よく暮らせるよう工夫している。鍵をかけないと不安な利用者には鍵をかけることができるように配慮し、安心して暮らせるように支援している。</p>	

55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>民家改修型なので畳や廊下は歩けない方でも這うことで移動していただけます。建物内部のバリアは利用者の身体能力の回復、維持に効果があります。</p>		
----	--	---	--	--

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない